

三河商人道

PART
153

幸田タクシー(株)
取締役部長
宮川 小智子 君



青年部とはつながりの場



幸田町民の足として活躍する幸田タクシー



日本舞踊も名取の宮川さん



取材スタッフと記念撮影

創業60年有余年、幸田町を中心に営業している幸田タクシー。もともとは写真館を営んでおられた先代社長（宮川さんの祖父）ですが、“この町にタクシーがあると便利”との幸田町役場からの要請で創業されたとのこと。昔はお金持ちしか乗らないタクシーで経営も苦労されたそうですが、着々と町民に愛され、利用されたことにより、今では17台を持つ町の足として欠かせない企業へと成長されています。そこで取締役をされている宮川小智子さんは7年前に入社。担当は経理と事務全般とのこと。4割しか受からないといわれる難関、運行管理者の国家資格試験を一発合格。無線技士（配車係）の資格も持ち、社員にきめ細やかなアドバイスをするなど、会社の中心的存在としてご活躍されています。

趣味・特技は、ズバリ踊ること。「現職につく前は、エアロビクス・ダンスのインストラクターを足かけ25年。そのうちヒップホップは15年と常に踊りながらの人生です。最近では、日本舞踊を始めて6年になります。西川流の名取を最速の3年で取得でき、今年9月22日には幸田町民会館にて本舞台があるため、日々稽古に励んでいるんですよ。」との事。また、その他の活動として、私立高校父母会の役員、三河市民オペラ制作委員会委員、幸田町商工会女性部役員など人と接することが大好きで、様々な方面で交流の輪を広げていらっしゃいます。

青年部へは、岡乗タクシー（有）石川先輩に「仕事のためだけではなく自分のためにもなる」と紹介していただき、2010年1月に入会。在籍は5年余りで主に渉外・総務系の委員会が中心。「青年部って何???’入会当時は、全くの未知の団体。それ故に初めて出席した1月総会例会は特に緊張されたそう。「入会当時は、なかなか慣れず緊張の連続でしたが、委員会メンバーが親しく声をかけてくれたことにより段々と馴染むことができました。多くのメンバーから、親しくしていただいたり、心やさしい気配りをしていただき、感謝にたえません。」と優しい笑顔でお答えいただきました。

青年部での思い出をお聞きすると「卒業年度だけはなかなか出席もできず、これまで主要な役職とも縁がなかったけれど、東海ブロック大会には何度か参加できました。懇親会の場でランダムに多くのメンバーとも交流を持たし、気兼ねなしに趣味の話、仕事の話などができ、思い出深い事業の一つでした。そんな場での出会いが、後に仕事を依頼することに結びつきかけとなったりしました。これもひとえに先輩方の気配りがあったからこそ。」と振り返られました。彼女自身、直接仕事に結び付けるのは、営業エリアの違いからなかなか難しかったと感じておられたようですが、人間関係を作る場としては十分楽しめたそうです。

最後に「先輩たちから私自身が受けた『自然な気配りが希薄にならないような人との付き合い方』を後輩たちも大切にしてほしい」とメッセージをいただきました。



取材担当／広報委員会
杉浦尚、浅井寮子、
谷口純典、神尾尚宏、
小出寛之